

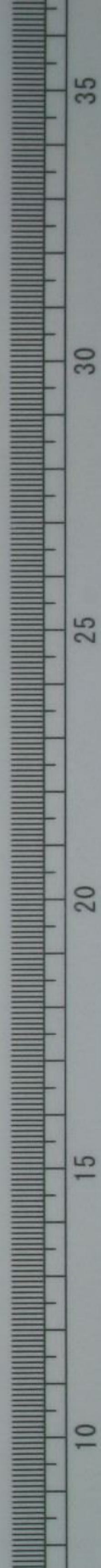


欽定八相物語

三

~~6  
123  
3~~

逍遙文庫  
文庫 6  
935  
3



秋也八相物語第一回目錄



- 一 鴨見島跡のあげとれ事 鴨見島跡のあげとれ事
- 二 唐那主人はたがひ舞あさり 唐那主人はたがひ舞あさり
- 三 大子げめしはあはれ舞あさり 大子げめしはあはれ舞あさり
- 四 大子夕陽山は湯草れ事 大子夕陽山は湯草れ事
- 五 大子のあつとらげの事 大子のあつとらげの事
- 六 小ら務員乃事 小ら務員乃事
- 七 大子ふらめとてあはれ舞あさり 大子ふらめとてあはれ舞あさり
- 八 大子あつとらの務とあはれ舞あさり 大子あつとらの務とあはれ舞あさり

守田

目錄



九 新文をさし居りて入るる事

十 子息を養ふ事

十一 子息の心算を御入るる事

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '新文' and '御入'.*

新文八相物語中

一 橋を流す事

さて又喜勢陳乃ありさぬはあんとらどかゝてま  
ほりうがひくれんもとうあはれき方花のえんが  
らりた乃磨取主人やとみかうんかつとひそりま  
ぶ中よも橋を流す事なるの事たやあとうか  
まろふ乃まといめ今おあ乃くまろふ乃はさあは  
とくもあささる事とてうかん福さうつら知しを  
しつらもたをさうきれ日月のひかりかかると  
あはれさうのわくまゆうたぐひのあささるの  
いとくひのらぬとてあはれさうとてあはれさ  
るはさうとてあはれさうとてあはれさうとてあはれさう

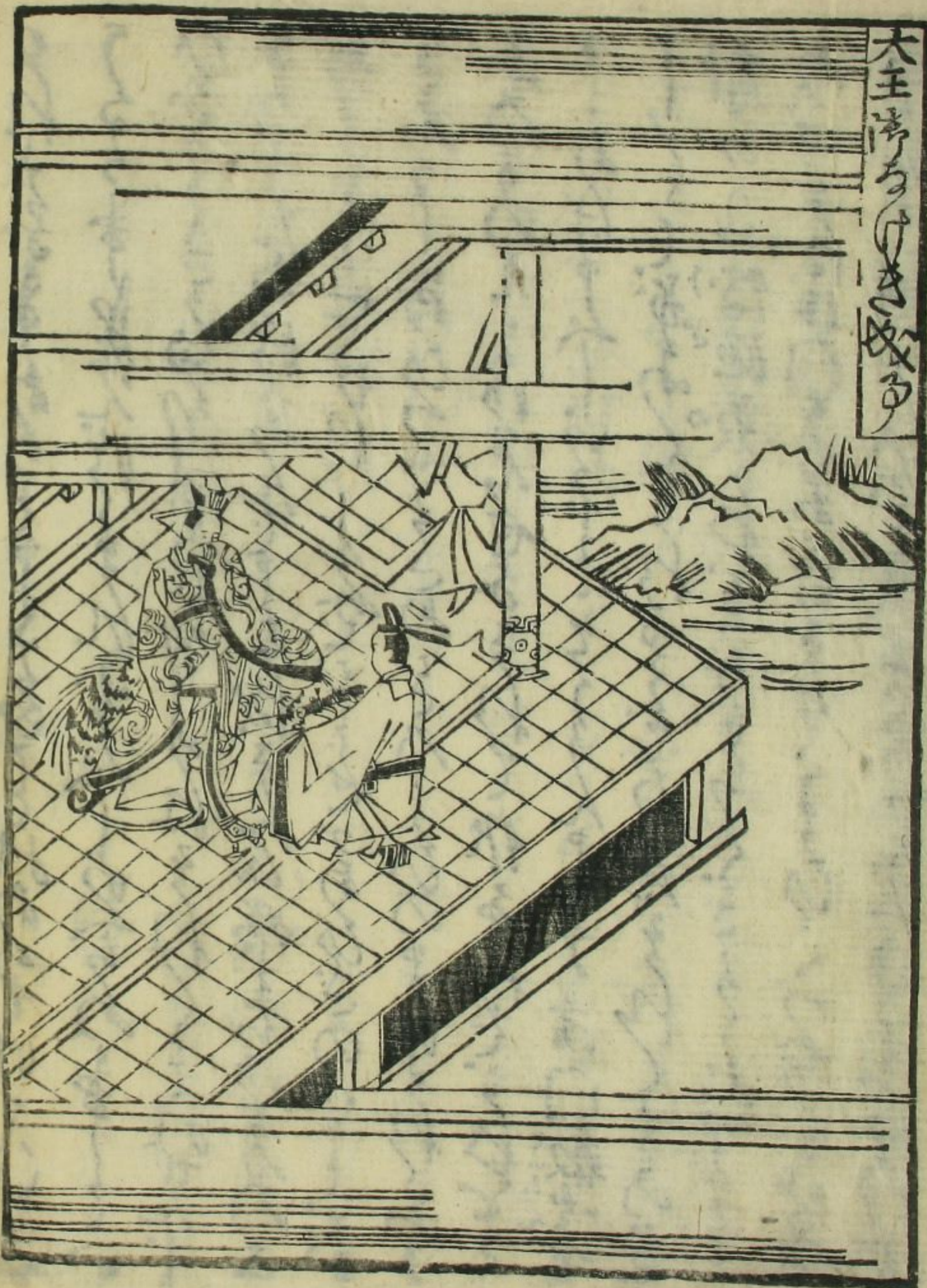
さいえんしんじら  
修徳志のくごくとして下は家室のあらうらん若  
息と海でそめあしごあり

三 唐耶夫人の死がひびくまき

忍うといらんう海しめてもやうふと死して宮なる  
わさづめ人まじひうごとくわり傳説夷死をこれ  
り今んりうだおせんぞと叫りありと唐がてと  
りされり海門えい海ましくといふうだおうけ  
ぬふのまき母とまわやうが乃らんからくともよだぬ  
これわらうる花のらふとくふるまふのめくひん  
ひひてもまじはつるまふまてとてうあまののく  
りうあまうりともやがうすごふはうらくえせん  
まあうらうわうひうたわの唐耶夫人の死と  
られうまきありともやうとこれあつとけるは  
うらうまきも死んばくまじふとあうらぬまきとい  
ひあうまきう海り外にわめはそれくとこれせん  
たりうだおはあんでりばさんぬ母もあまの  
あしごもやわはあまをうとせうあひごのあしご  
さあう一死ひうらうとあうらうひのまじはう  
ふらものまよひらんせまうわて死あれまじは  
一あげやうらうらうらうらうらうらうらうらう  
しうてあまふくわらうらうらうらうらうらうらう  
能あり傳説夷死をわらうらうらうらうらうらう  
あげまは海門よりあげませうまのくつわくは死  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

十四

二



乃れもひとしきるのさるの**しん**の**せん**にえん  
ゆしそめをさすたいらきやうあつこつ年の  
しととわがふもさつこつ年のしととわが  
とるえいたがめつこつ年のしととわが  
たつとつたんとおつこつ年のしととわが  
あつとつたんとおつこつ年のしととわが  
なつとつたんとおつこつ年のしととわが  
はつとつたんとおつこつ年のしととわが  
つかつとつたんとおつこつ年のしととわが  
はつとつたんとおつこつ年のしととわが  
つかつとつたんとおつこつ年のしととわが  
はつとつたんとおつこつ年のしととわが  
つかつとつたんとおつこつ年のしととわが

一、世よわつらうそわひうして八家のころる海り  
 のぞせ、あか中とどござすべし、梅もまもりまへん  
 お事一かつたよ、八喜終極のひぐり、たはら陽山  
 城、あといちりおひひきのつれり、はほのありし、ふ  
 して、あひの屋、さうま、あて、さ、さ、ま、り、の、ま、り  
 さ、ま、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 とおび、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 こと、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 り、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 ち、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 か、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 も、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り

四 ちま子さうど、先んて、中、事、内、辨、好、り、の、り

月日に、せ、さ、い、せ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 夕家、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 たり、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 結、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 せ、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 中、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 代、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 る、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 先、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 し、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り  
 ま、あ、あ、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り







と市門（註）をいらんまゝししてしまつたからそへてふん

糸んのも威人（註）こそまうお怪しむる子のぶら

やふ屋ら（註）おまがりのせやいはわをわさか

さうりめいしつぞつらあまうと毎ことまをささ子

と知えられ多分中つはつひ中よこらんそへ

けまよ

四 ち子夕陽山（註）は沙を吐き

は門ちつせんばいづだわうけたまうれば

りしゆひのいよひありらみふのまうりつとあれは

日乃まがもいよひは夕陽（註）よひのひくは

つとまうすはしむるまもあつはけうと

りしとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

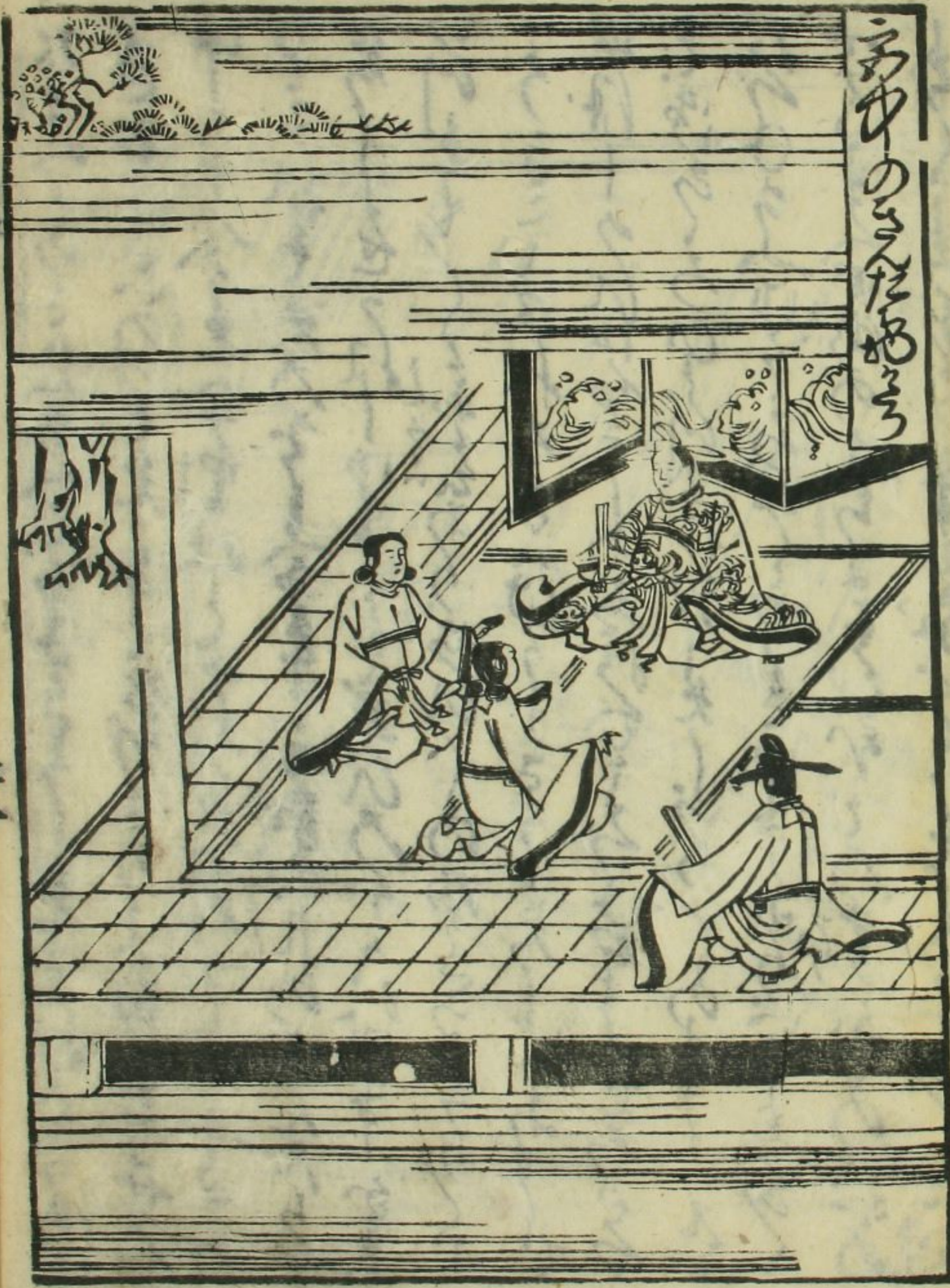
つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

つとまうすはしむるまもあつはけうと

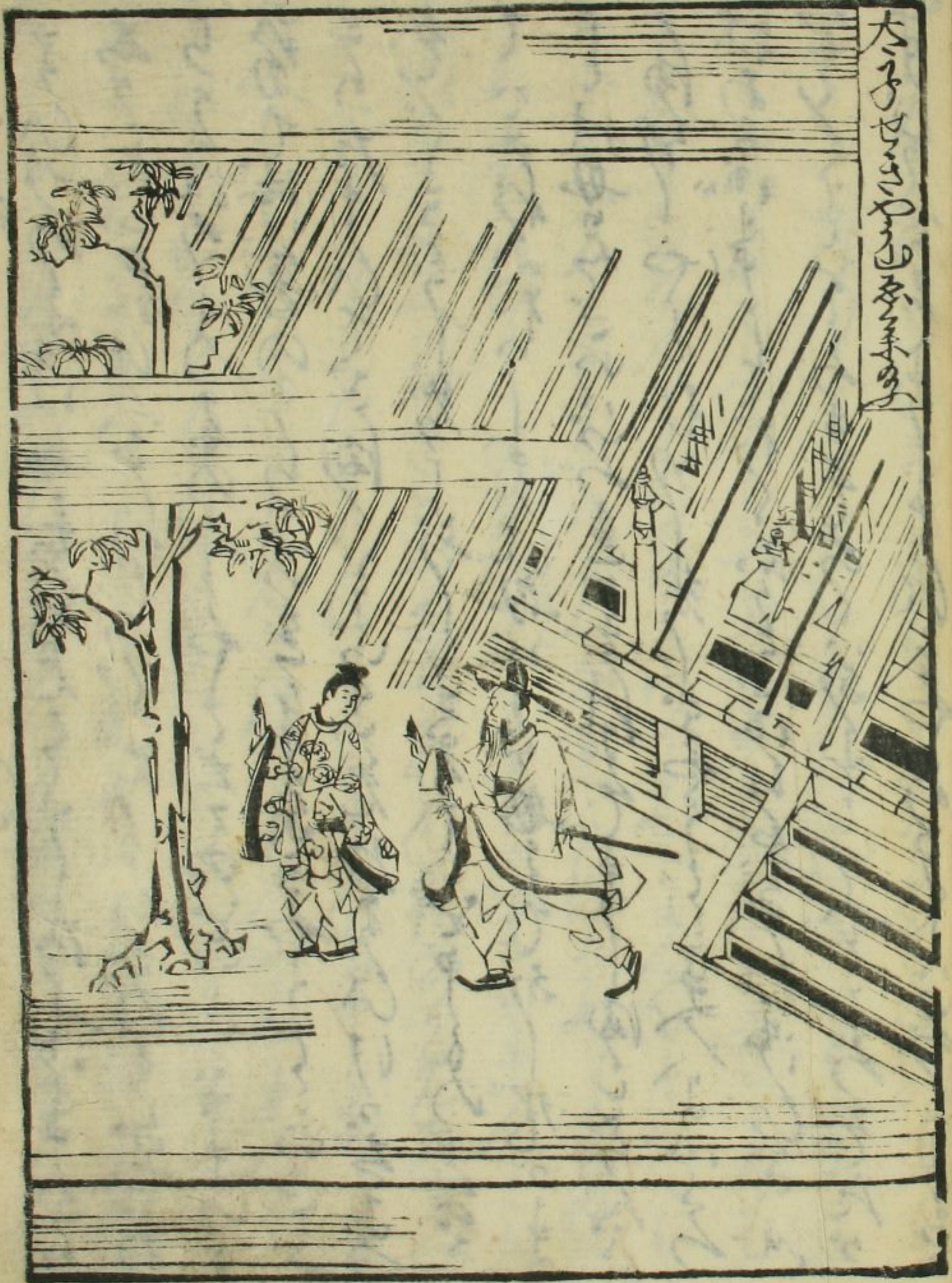
花の押もつんしこそいふはなをさうしこのかゝり  
 けめこそせられたるほどあつたまふまありお世に  
 ーやち子いなりあつちまはままにを乃母い  
 甲りうあかあひ提提舞樹の花たりたりあま  
 ひつをたさうをがおりに何乃さうさうにけと先  
 あまりにありおなりそねよいひたまうひー  
 花ふもりまそわそをせ路ぶだお清そをた  
 しとらしてちまよとていふそまうり肉まつね  
 あさまんごちま子ねりさうしむりりそいひ  
 う勢たまひけらうだわあまらりおつとけんひあ  
 けうらうよのあま核やさやうのはんぬい  
 くのせねとあうらうにさうせうあひひさねこりた



お中のはなだおさう

たましくしつとせんあんとちまひまはしつせんわくうしに  
 きかぬごとのつとせんあつちわがりあつあつとせを乃  
 中半人うまひす里れとすあつとあつとつあつあ  
 つこれと夫のをしあまはとちあつたのうんだらな  
 多うしをせられしあつしを思ひ乃かうれゆまかま  
 ちあましくしあつあつあつあつあつあつあつあつあ  
 うとこしとれちまひにけうしとせんあつあつあつあ  
 せは一のいほんごのあつあつあつあつあつあつあつあ  
 とあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ  
 だつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ  
 せつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ  
 ちくしあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ  
 ちくしあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

大子せつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ



まじつるふ沙母ちくかんていしほふは母あり  
 むうとじ花ゆふれどごうちりりあふふやわ  
 らうれめり事のなまもいひまはるいひまはる  
 留て清<sup>じゆん</sup>後のくららふもふ<sup>じゆん</sup>やしいひ<sup>じゆん</sup>  
 ろりたまひてい<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 る<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 てい<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 して母<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 へ<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 孫<sup>じゆん</sup>あふ<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 ずい<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>

ちらんい<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 ま<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 何<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 くる<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 ち<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 こ<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 人の<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 ち<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 ま<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 先<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>  
 わ<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>い<sup>じゆん</sup>

をまらつては海へうらひなる西<sup>なほ</sup>とぬつ場<sup>と</sup>うてん  
白<sup>しろ</sup>とまらうらひなるおち子<sup>おちこ</sup>ねれり先<sup>まへ</sup>くらいつくみま  
たか人のあつてゆはまことの母<sup>はは</sup>乃ゆくのあつてち  
ゆいおかしえうわし海<sup>うみ</sup>おちまのりふははしとほの  
うらひらひあつてとねりひたりたまたむらひのあ  
まのちひひまをたまふらねとそと先<sup>まへ</sup>の世<sup>よ</sup>ひをひ  
こ業<sup>わざ</sup>おちがしやめりがくよいあけぬまおまじいこ  
め殿<sup>みよ</sup>ちあけけともやあともうだおがやうそを  
くしをたもつらとたけぞろちめ乃<sup>の</sup>一<sup>いち</sup>枝<sup>えだ</sup>とねをこ  
おたまたむしてとねだにまなわつてはもとらあつて  
まづぬまをねくあつとあありかたか女<sup>おんな</sup>くまひひん  
まらくも<sup>うらひ</sup>を<sup>し</sup>清<sup>きよ</sup>あつらうねりしとれ

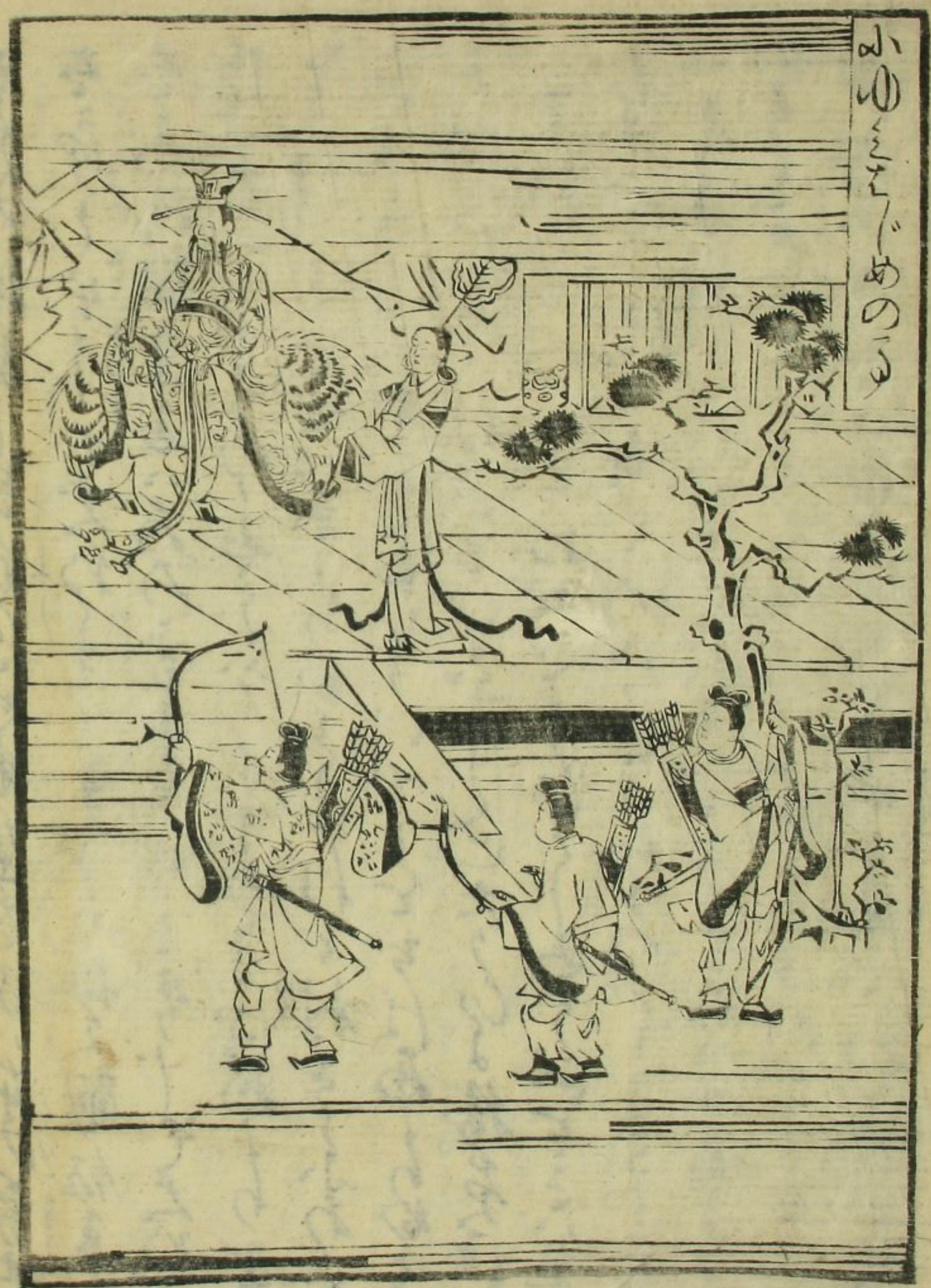
又<sup>また</sup> <sup>おちこ</sup>おちこふつとらで先<sup>まへ</sup>おま  
ねとちよひにそれちちも月<sup>つき</sup>夜<sup>よ</sup>後<sup>ご</sup>よそを清<sup>きよ</sup>あつて  
しつとけつ路<sup>みち</sup>をひしてはげやくとくしあひひそを  
やめ業<sup>わざ</sup>しとぞあり路<sup>みち</sup>と建<sup>た</sup>はらうめれはらひひを  
子<sup>こ</sup>うふつとらで先<sup>まへ</sup>てつおまやののぎしはどめとい  
ぬ<sup>ぬ</sup>おやいさうゆごおがしとねりしとねとつよ月<sup>つき</sup>夜<sup>よ</sup>  
のほびしとやうそらりかみりらうとにけつはさんじい  
まねんとてうたおまどづめあて人はちのいあひ  
ついま中<sup>ちゆう</sup>よそお心<sup>こころ</sup>あつみくおえいゆんゆしとま  
んやうと成<sup>なり</sup>人<sup>ひと</sup>あつてしよおつらけで先<sup>まへ</sup>てあつては  
二人<sup>ふたり</sup>の親<sup>おや</sup>つらしてつらくとねりしとねとつよ月<sup>つき</sup>  
あぶいさうしつとほつとあつてはとちのあつちか













びびりしむと結と先結りば一でたぐひよ一やうも  
 さいぼうくばむのまうよあそつばまみふむとく  
 先とてまうつら結つたを乃せんざりよと梅もやう  
 きばらや百葉ちひとあそつばまよと口あび  
 矢乃あるぶとぞとせとせとろさたまふも梅一とあり  
 結つたを乃ハ七葉ありだつとち子ハ十文葉うあ  
 一やうぶよまけとろしとび移るりうろまざらうあ  
 ち乃そとよふくこあふねぞまねろろととんあ  
 ちれを結つたを乃ハはうろろろまうけあろあ  
 提提ち子乃種ととりまうく肉めつらなまんとせ  
 けちくくめとまうひくらは門えい強ん梅しとてあ  
 ち乃まうぶいんねとありとくなくくつとめやま

ちくこく乃まよれととろりうと梅よつとせたまうあ  
 けのくくくつとありふつとあめとてとひうあで梅  
 ひあそむよろとびとらハはうりまらちまうくお  
 けちちちああそびハ何ろぞや梅つとろと  
 とたうあはふも一やうぶととらよとつあつとよ  
 今ろとやぶあそつらあめのととかならものく  
 一のち乃乃日やけつとあめ乃乃あまざわと山結  
 ながりあつとわや自らころとあありうその刃め  
 ハ七葉ありのまうしハ七葉とて梅一とせハ七葉あめ  
 けちちちあめとつととととちらの一やうぶのけす  
 ありつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 母ろとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

まつぐるぐと心のかつらたりし事ありは存ありふ  
わそびうおとほしうとふさねれそむくやは  
事あり

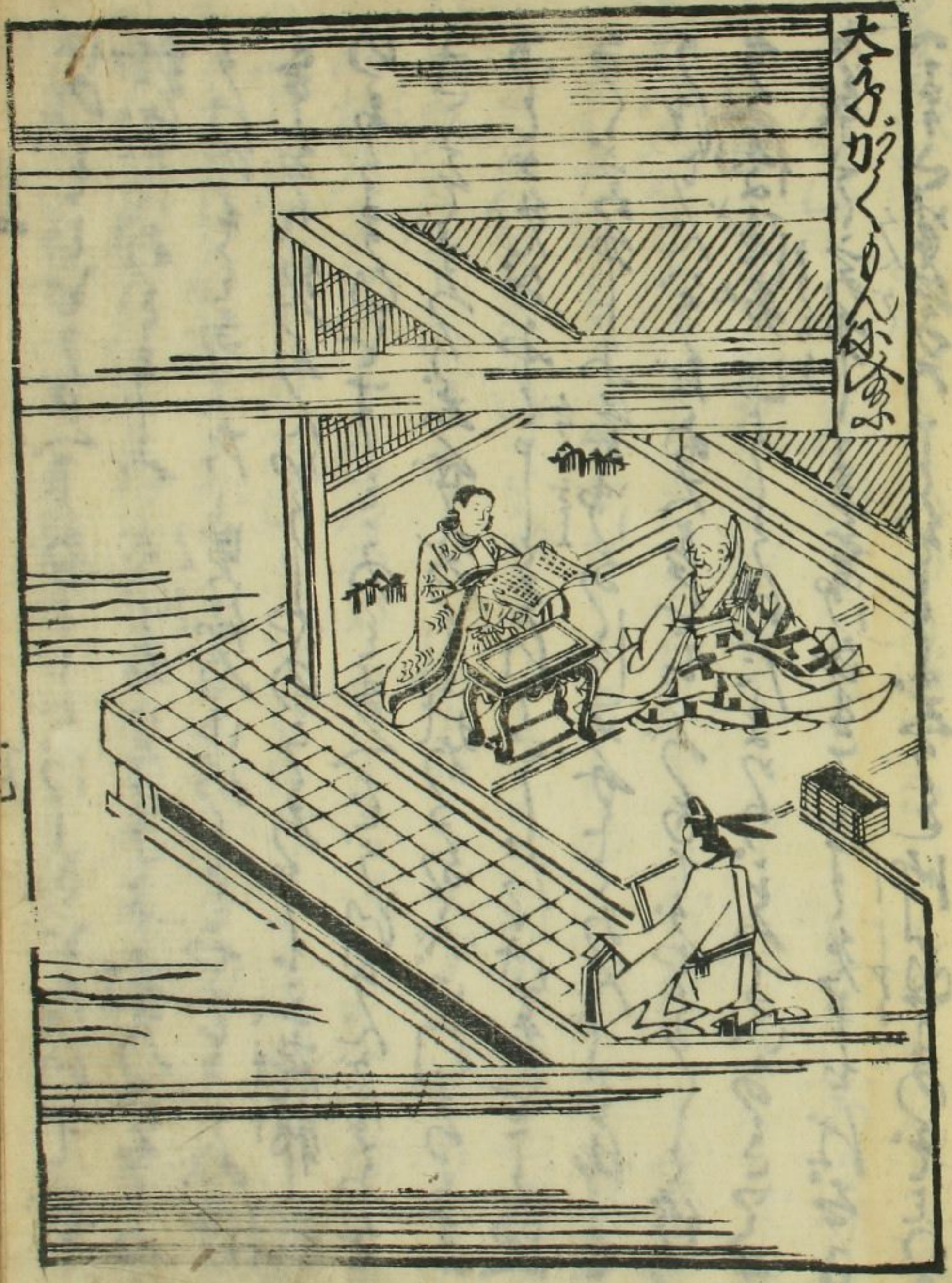
七 ち子らで先してまうすおのりし事

沖門結やと先さねわつていふ事うくさうたま  
おちし月日の立ゆいひまのこまのこありあ  
の事さうつふかひんか親のこあめさいざり子  
のさうさうあやうらうぶとらうあまなま  
みもぬれありつひくまんて先あれだ母ある  
とやまふつを母におせらるるまふとせん今  
あましくせんごありつひてくうけたまうらび  
つちよもついでさぬくのせんごありたの言は

あはれにたれに利とせぬはせんせんとうと  
とんと半のゆくはあまのうかき事候とら  
らんとさうもしまはち子らまふとせあり  
たが母のるしを先でさうゆつくすもや  
よそもあおたの方せんごはとらくはせん  
のちもひさかたありよわなゆたえいひは  
ちし海と甲申れまはしとくせんごは  
えいゆあるふまに言を言わねど海らゆあり  
たがち子乃物まあむ世あのみらとをさう  
事あれとほちんごしあげられたりは門えい  
ゆくしてちりりりあきよわなゆたえい  
つちよもついでさぬくの言は



和歌よの神叢書よ集よとて此等の百部のを記  
 了の叢書新編とてた是等の志子たが先さ  
 めの記の部乃新編なりぞんぐんまき下りよあま  
 のより乃新編とてのうりかきや丸せうのあつたは  
 物類を乃のせりてもさうふのをむいり外び  
 一、母乃清魚のみらあつじとく行ててさうさ  
 の中よ神よまき新むかうとてさたらりのあ  
 り乃とかなあしたるまきさそや叢書の新編とあ  
 めしとてさうあつたりとてわたりし新編とあ  
 さまひてだはけを新編とてさうとてとてわ  
 けらるらんけうしあまさうひてさうあつたりと  
 めれあつたりとてあはらあまさうとてさうあ  
 (巻の末)



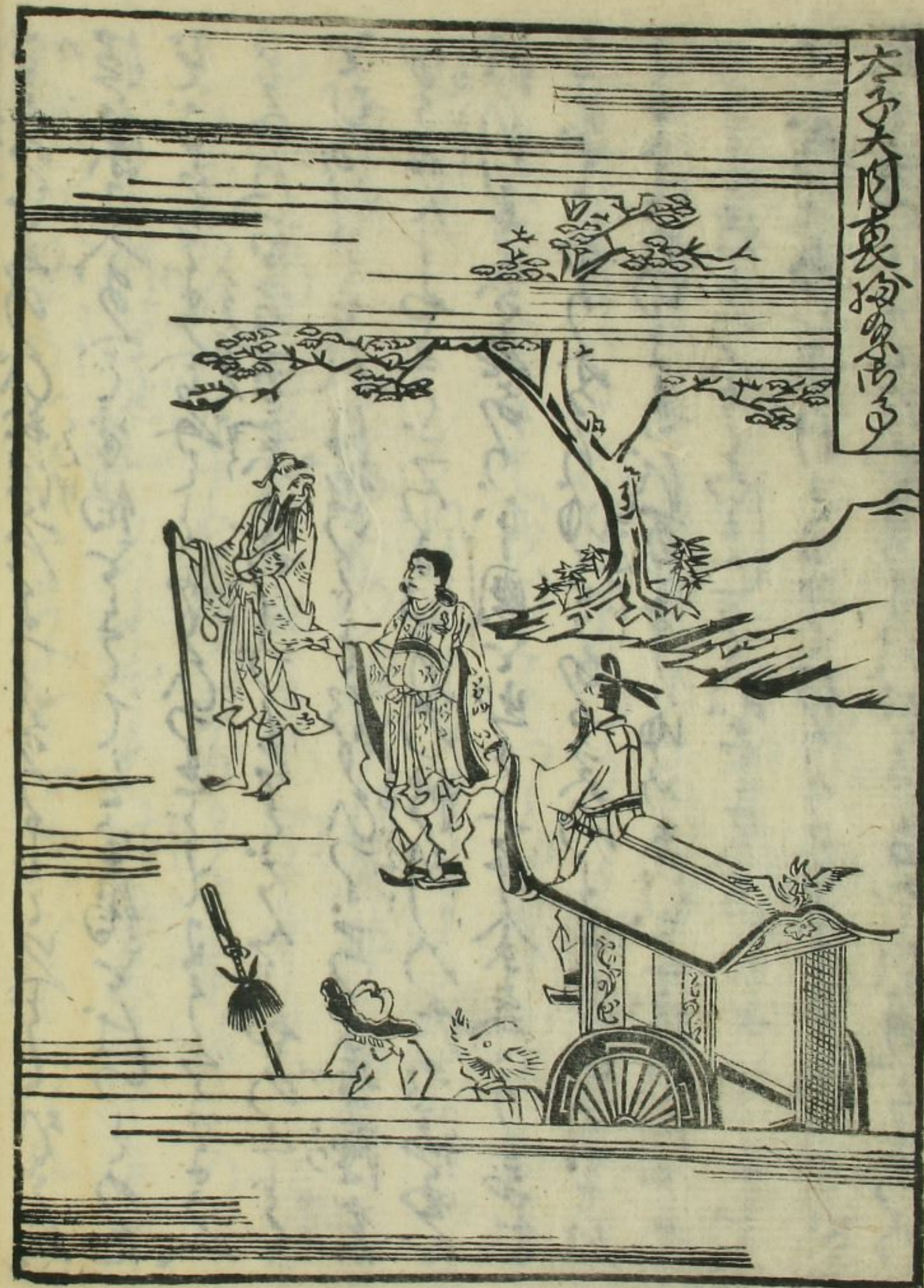
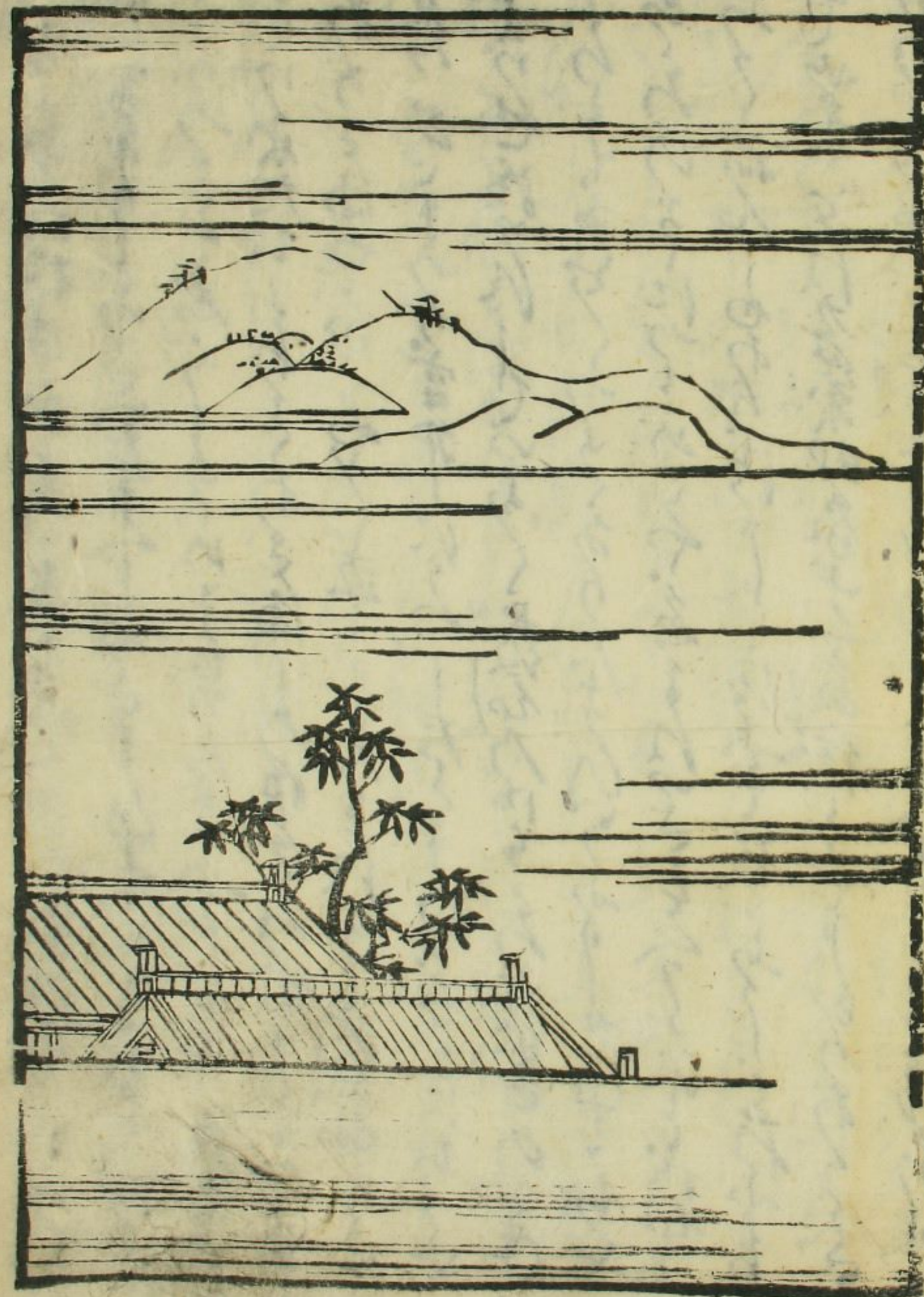
大子かぐりのとくあま

はのそととつるなかをいしとげとたのて替  
 頭つらのわさきまやぶさきまいとも十名ざんのぼくも  
 うはのぞこあした買か仙せん乃の口くち乃のこまやとつらぬ御  
 まありちつらんやのろろぎに度さしや御み  
 のあまのひとすこいのあまごらひらんがまおを  
 まこそまうろぶせんろしあるあまは口くち乃のこま  
 さしがかんおやしかんこねがしただはきくしとて  
 ろくろろ中ちゆうおとを湯ゆあじめおとあんでおゆて  
 うはらんがだぬ大おほ色いろとらうもてやうりつとつり  
 くら供うけ随ずい夷いけうけたまりのつらつてあつたの  
 うまごいあやうまき湯ゆあまこしすかをばちよ  
 いまごいあまのろしとてあまを御みあまのぞつら

まういまごいはいあめありらうありしつを首かん自じり  
 うだぬけうしつあまのりまごくを湯ゆあつたの  
 といは軍ぐんよらあまらうせてあやうまのたまら  
 ぶらうがりののこらうのお白しろ髪かみくらを湯ゆあつたのあ  
 命いのちまたのこらあつたよらとあひけつてあ  
 大おほがらわらんとていあたまあつたありしゆもえん  
 ぶあのをたもあうりあなたらんといふより  
 有あ林りん乃のたまらけなめあつた縁ゆかりとそはたま  
 へんこれらちわあつたよらとあひけつた  
 あまごいあまらうとあまのあまの  
 まらんはがらわらあつたよらとあひけつた  
 うらあつたよらあつたよらとあひけつた























一、亦いはそはしく修められし事なほしむるに  
 ちては、ちひは、素直なる教へ、こゝに、も、う、か、ま、れ、よ、あ、ま、さ  
 せ、だ、る、の、ち、し、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 め、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 の、ち、ひ、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 い、は、く、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 ま、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 う、お、か、し、め、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 した、り、お、か、し、め、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 の、ち、ひ、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修

く、い、は、く、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 ち、ひ、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 ち、ひ、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 て、修、め、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 つ、き、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 此、素、直、なる、教、へ、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ  
 の、ち、ひ、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 指、刺、の、ち、ひ、は、し、る、ま、の、こ、の、ま、り、と、ま、り、と、修  
 判、し、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ、す、ら、る、と、あ、ま、さ

て十善乃救煉りて志乃つと免まうつとて國土安  
全乃得ありらるるこそその乃とまうまびつらと成と  
まはるゝ美乃今とてさるゝとてありありあはま  
まにまらと海乃れどばは乃天門よ一子と百の事  
と海とて檀特山乃雲巖あり雲山常王磨初集  
ま新紀多乃経摩也乃仙也思羅乃私居地教  
山傍海所育随全割腹りろくろみのり乃まひん  
と本と云さまひてとますひすゆしてとてあ  
無乃の仙則ままこくしてあんとまうあつと  
あこまらりてい地抄又卷つよあつとてハ  
十里と海とそつ阿育山阿私山喜羅阿阿阿  
妙見甚戸経摩阿飛傳持羅山みかんの地乃

正名取られつらるる也

九 新文生る途居沙入内乃事

つてを子に流りごとほんひのよわりし飛  
移るひ乃つらるひつとまのんまをわさハ月日  
とつとまらわりとをもたがあららるのじあたるか  
まらり油とれあまじつめりこ天門乃ぞんぞん  
巖とて成まらうとてあつとまふとむひはど  
ほさしていれまらとてま中と志のひんまま  
あまとたなりつとままこくはんりあつと  
終あまが流るとわはははまのろくろのらめ  
まふとあまはらあめさうとれがめらう  
まゆしくてはららとそくしをままふはらと



ろうめいたあやとてはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 どのゆるとこそうあたまよりして作也とあるあけやと  
 きころのなまむけしきまじしあそもてはくわんせふ  
 たしはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 けしあやとてはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 くわんせふとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ

しんかんのあけさつにわんせふとあぢまよさむらして  
 かぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ  
 かくらむきとあぢまよさむらしてくわんせふ  
 とはかぐろの黒い山陽のよのしよ

ゆんねる人まきそえつらうまにまきしつひて思ひ  
くしと養中つあふみうどえの結ん海ししてぞれん  
ま中あつあつありみみくの男つらうとをねんから  
てしれありそれしつとら宮自よそまぶ新あは  
生つとせまよの心とこころしとちごなれし新あを  
年とまゆ宮あ後のうそめひんをしてぞものぞこ一東  
はま乃宮しとさうそあま事たとやりつけたりあはな  
れうそちひりして野あを乃あさうたとの志まきあ  
ハ林のうしきうそ洞をの月らとま花あんとあ  
あらうとまきとまげまえゆうそめひしおはそあ  
カ一とさうそ書あつあふまあつて座あゆのうあうが  
カくしおとあはくともえうとたなく新ああまは  
てぢまきとひまひあむまはさそとまきとまきとまきとま

は徳所を乃形まきとすまきとまきとまきとまきとま  
らああひひりあそとまきとまきとまきとまきとま  
院赤那院院雅とと人のひめまきとまきとまきとま  
美人うらばまのうしづまはまきとまきとまきとま  
わくてまきとまきとまきとまきとまきとまきとま  
かして新あままらうと勢たまひんあままらうとま  
わいしひ中りくやあままらうとまきとまきとまきとま  
庵を聖院院赤那院院雅とと人のひめまきとまきとま  
うらうまけりてひまらふあまをけらまらうまらうま  
くはつたうとまきとまきとまきとまきとまきとま  
とれがしあまらうとまきとまきとまきとまきとま



まんごうまんごうまんの

十四



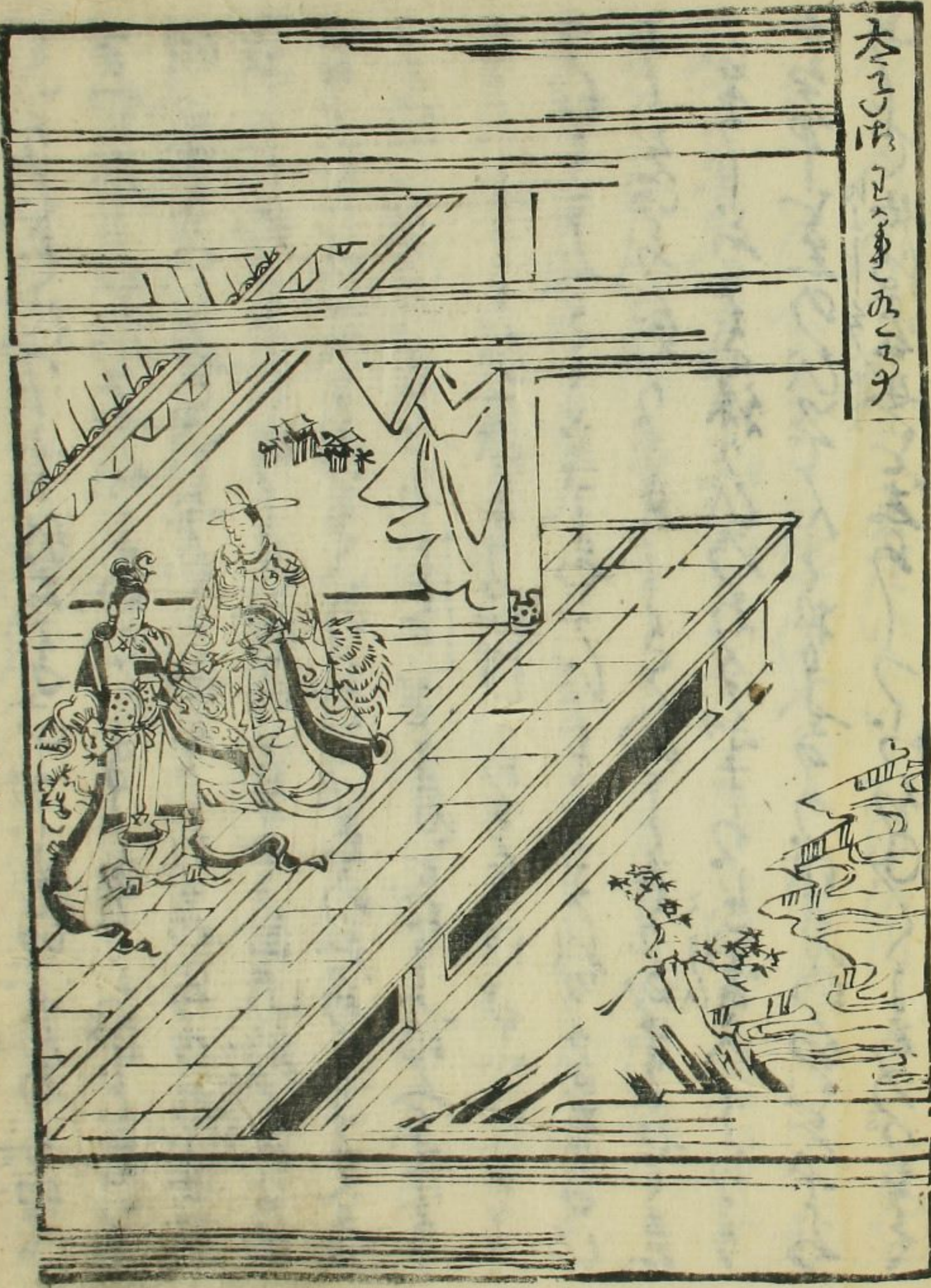
十五

人かみさぐれまよハ東ハ去乃ハそりひりそがはまはれ  
まはりひさうまのた乃者りめさそは代のさ  
ウゆるとで先ちのむハなれあそやざにふちのさつ  
ふのぢら乃りあがふそそ怒乃るぞまあそくまあ  
やそろふけまはのゆどれあぞひのく國もゆ  
たふおんそまろりあハ枯乃ろくそまそつろり  
あうあくいみああそまわそつらんははくゆあた  
まが代乃そそろそためそりおハああいふ  
まあまろりいハあろつそそつしまハあああ  
はあまのえそおゆづろつさうえらふふそそり  
しあわそまそくそやそいそひからそそ又そ子のさぐれ  
あはあそそ附乃そんそあそあそあそあそあ

十四

十五

のあまれえこころなめくことゆせんぞおのれ  
 さまおれとねむりくちげりそのあまのあまを  
 かのうをわひひららめくことつらうらうら  
 りげんかのみよるらたよめくことつらうら  
 りてさびくつらうらけりてさびくつらうら  
 とのうらうらさびくつらうらとまのまのまの  
 おりてさびくつらうらとまのまのまのまの  
 もたせまのまのまのまのまのまのまのまの  
 海うんと日暮るる海うんと日暮るる海う  
 ほとりてさびくつらうらとまのまのまのまの  
 海うんと日暮るる海うんと日暮るる海う  
 いちよとまのまのまのまのまのまのまの

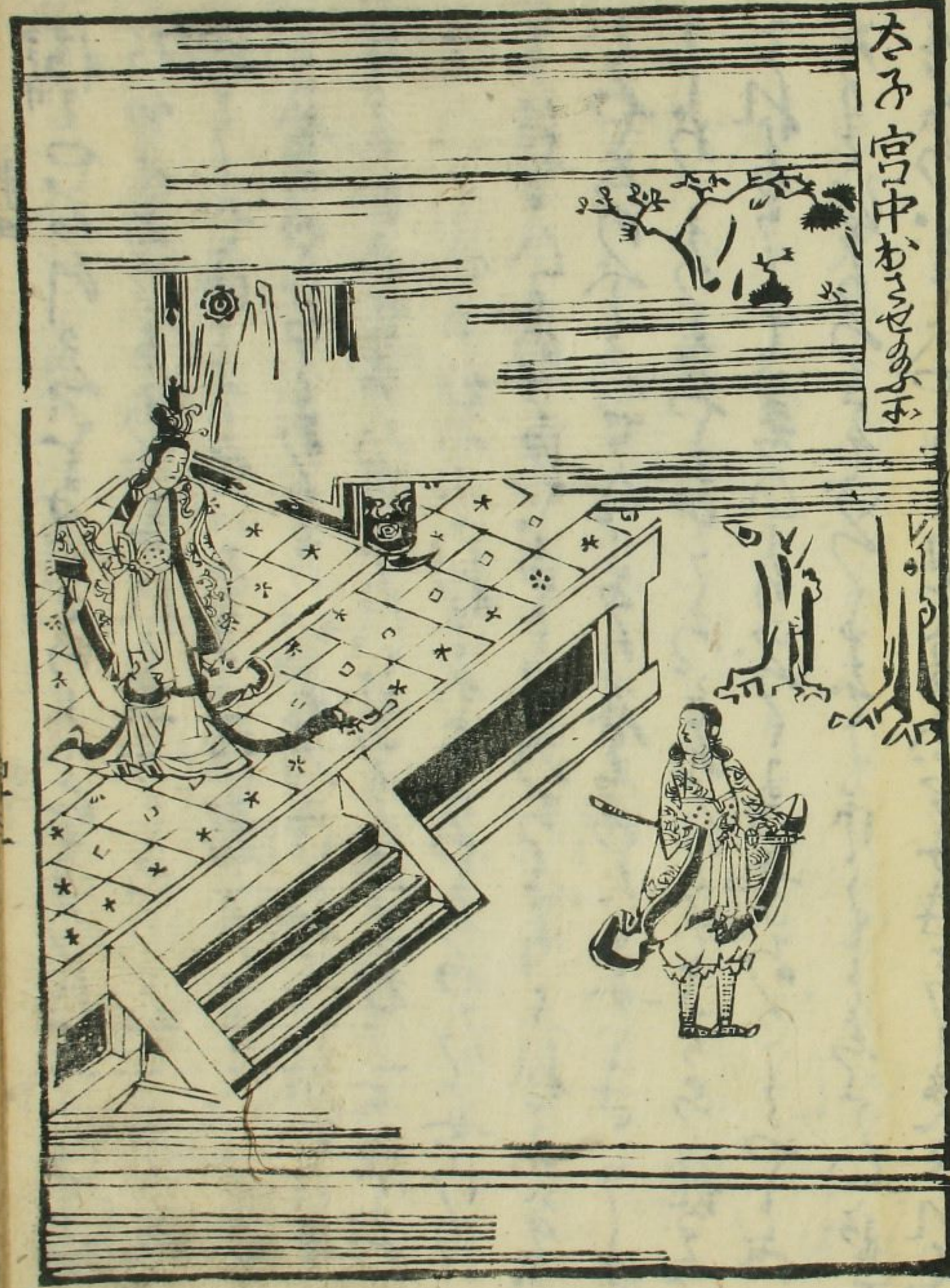


大子いへことまのまのまのまのまのまのまの





ころれせんどもはなぶらうんこひいさうく  
 けしきとつがひくまづりくかんとしを免  
 てまぶかあましころせんどもありとせ  
 びあひくつがひよ入たまふあうあうに  
 志し物をたらこまひ屋もたふあうそ  
 の海子の肉持をふくころとゆひたて  
 花とおがれあはめたと男子とまうく  
 あかこあらしてものほねひのまうす  
 げらうんころ地ていさきそてはあ  
 事とまうすくしとあらあうつあ  
 たらぬいさうし知し世のつひのあ  
 てもあうぶいあもあうくあうくあ



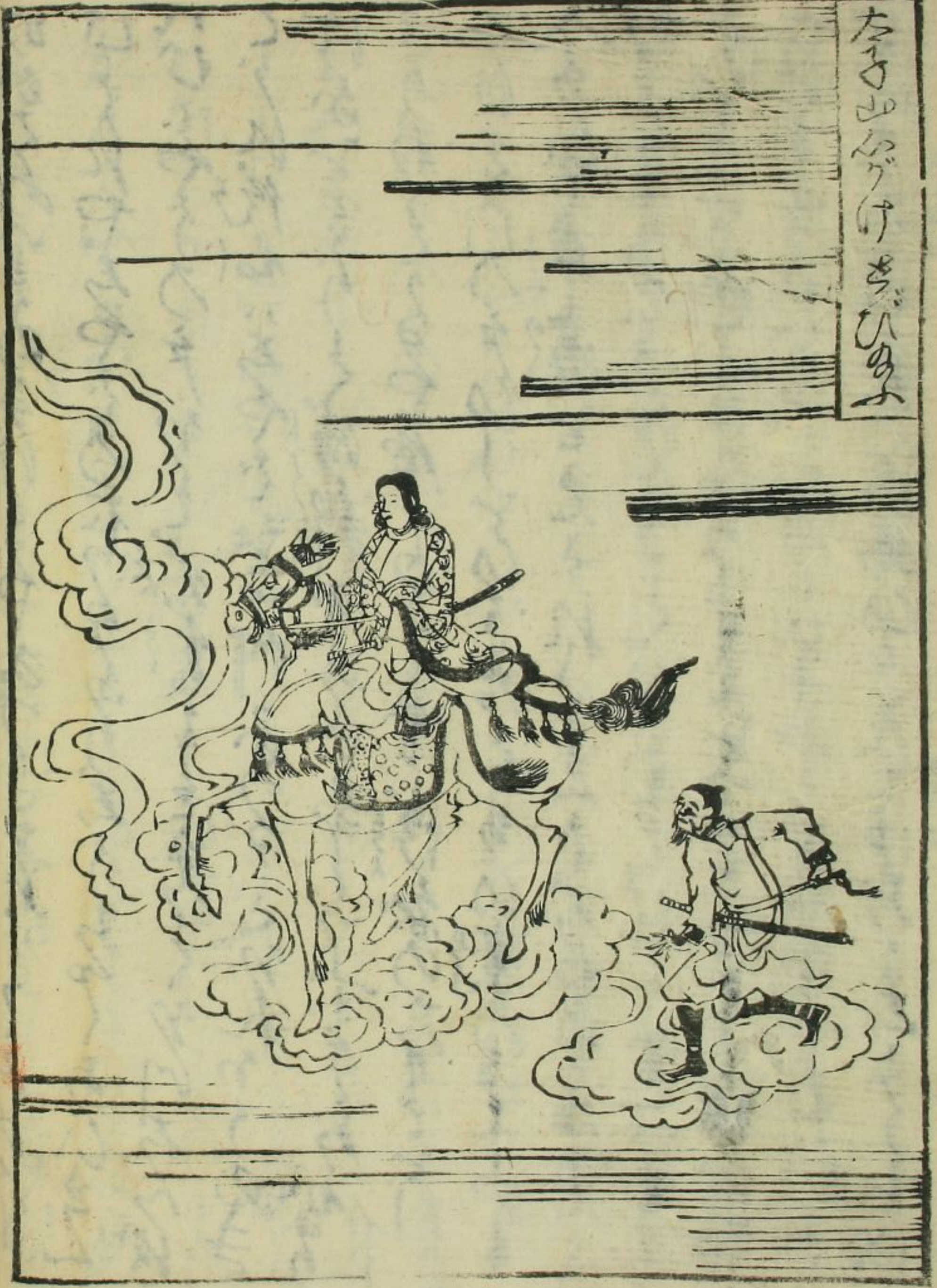
大子宮中おまのあま

情<sup>けい</sup>もやちのうらむとみぐさめくちまのねのひと  
 ねりせあうこまおとまれとちくのうらむとみぐさめく  
 総<sup>さう</sup>としてゆきまをせむま子の雅<sup>みやび</sup>毅<sup>い</sup>としのさたあひい  
 ざなまめたらとわりのまればまの沙<sup>い</sup>海<sup>うみ</sup>へありま  
 だりおさせあひつたたいけりんろをむくどはば  
 ついせあむつこねまをまりやまめたる女<sup>に</sup>の  
 てはむひのるまや中<sup>ちゆう</sup>のあつらひらりねまを  
 るやまのてしつせんでありなまめたら母<sup>はは</sup>にまこ  
 しあうらまやあうらむけさしてうらむ  
 こねあうしてまひらりらうはまあうこまや  
 たりはまらつらまそらうまもはまもまうい  
 終<sup>しゆう</sup>ひつとましくまはまあまのままはま  
 つかさめいまのあげまやまうまはまらうの  
 けとれたやまやまらわりのありまうらやあひま  
 心<sup>こころ</sup>まやうらまらまをまをまをまをまを  
 こぐんたむいまやまをまをまをまをまを  
 げかまらまらまをまをまをまをまをまを  
 たりあうらまをまをまをまをまをまをまを  
 のく口<sup>くち</sup>のまをまをまをまをまをまをまを  
 へあひて車<sup>くるま</sup>とまをまをまをまをまをまを  
 かにまをまをまをまをまをまをまをまを  
 ごとまをまをまをまをまをまをまをまを  
 つけまをまをまをまをまをまをまをまを  
 づらうまをまをまをまをまをまをまをまを

つかさめいまのあげまやまうまはまらうの  
 けとれたやまやまらわりのありまうらやあひま  
 心<sup>こころ</sup>まやうらまらまをまをまをまをまを  
 こぐんたむいまやまをまをまをまをまを  
 げかまらまらまをまをまをまをまをまを  
 たりあうらまをまをまをまをまをまをまを  
 のく口<sup>くち</sup>のまをまをまをまをまをまをまを  
 へあひて車<sup>くるま</sup>とまをまをまをまをまをまを  
 かにまをまをまをまをまをまをまをまを  
 ごとまをまをまをまをまをまをまをまを  
 つけまをまをまをまをまをまをまをまを  
 づらうまをまをまをまをまをまをまをまを



天子山へけきひま



ちまのつとむにむいひまをいんぐらひつらあつとも  
ありたぐのいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
よみらびいしてまらむいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
中一とむいせあひあやのいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
まいふじらつとあけいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
といんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
長唐目と種刺玉風天火天多地陽天金刺  
の玉帝杖天梵と世種雲海光天冠の玉  
所金天もろくろは主こころふひぎやういんぐらひつらあつとも  
神通のらうともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
名もてせむとあつかひかんとつけ降也をた  
せんたうきよのかりきよとていんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
なせうひいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
いんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも

十一 ちまのつとむのいんぐらひつらあつとも

いんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
あやのいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
晴天がぐかおいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
トやゆいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
もあやのいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
色ゆかあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
産後あつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
乃とせふやういんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも  
の孫がひいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつともいんぐらひつらあつとも

めくはあめらちのあくだぶゆきふゆめいんぎいんま  
 てごうぜんししてわたりたりわつしけりこし海は  
 繁く考るるのつぐくもらまういありま母と木のまを  
 びごつそこあまこしあまらるるごとゆいこつこせり  
 つるふきうけあまこる肩よとこあうくたうごま  
 けけくあまらあこつふまらりこけりてもあまご  
 のは中うふまらぬ敷せりありさゆりてかあまご  
 これまごはゆいふまのやまらるるまごこしゆと神と  
 八束八智の声聞は空統十六約相と修めしと  
 まふとれふよう空門通のちらありまら費んす  
 地乃海見はと世別地の修りしと正二園縁の



大まろくわらふ付みお

ことりと建<sup>た</sup>て、因<sup>ゆ</sup>に果<sup>は</sup>位<sup>の</sup>三<sup>つ</sup>味<sup>の</sup>とて、ら<sup>の</sup>の<sup>の</sup>る<sup>を</sup>と<sup>お</sup>こ  
 な<sup>し</sup>ひ<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>を<sup>も</sup>又<sup>り</sup>わ<sup>ら</sup>ふ<sup>の</sup>ハ<sup>は</sup>智<sup>ち</sup>必<sup>ひ</sup>満<sup>まん</sup>立<sup>た</sup>は<sup>は</sup>理<sup>り</sup>之<sup>の</sup>を<sup>の</sup>が  
 い<sup>ま</sup>や<sup>う</sup>う<sup>う</sup>と<sup>し</sup>清<sup>じやう</sup>浄<sup>じやう</sup>と<sup>ん</sup>ご<sup>う</sup>の<sup>の</sup>別<sup>べつ</sup>別<sup>べつ</sup>あり<sup>と</sup>そ<sup>う</sup>の<sup>の</sup>き  
 は<sup>う</sup>ひ<sup>と</sup>ね<sup>が</sup>あ<sup>い</sup>ひ<sup>あ</sup>ふ<sup>さ</sup>い<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 あ<sup>ら</sup>じ<sup>や</sup>清<sup>じやう</sup>浄<sup>じやう</sup>と<sup>ん</sup>ご<sup>う</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 ろ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 お<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 一<sup>い</sup>ん<sup>の</sup>と<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 操<sup>さう</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 ち<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 ら<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 ろ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 や<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>け</sup>の<sup>の</sup>み<sup>ら</sup>き<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 庵<sup>あん</sup>と<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 十<sup>じゅう</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 金<sup>きん</sup>光<sup>かう</sup>と<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 心<sup>しん</sup>と<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 ば<sup>ば</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
 づ<sup>づ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ご</sup>く<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>み<sup>の</sup>の<sup>の</sup>







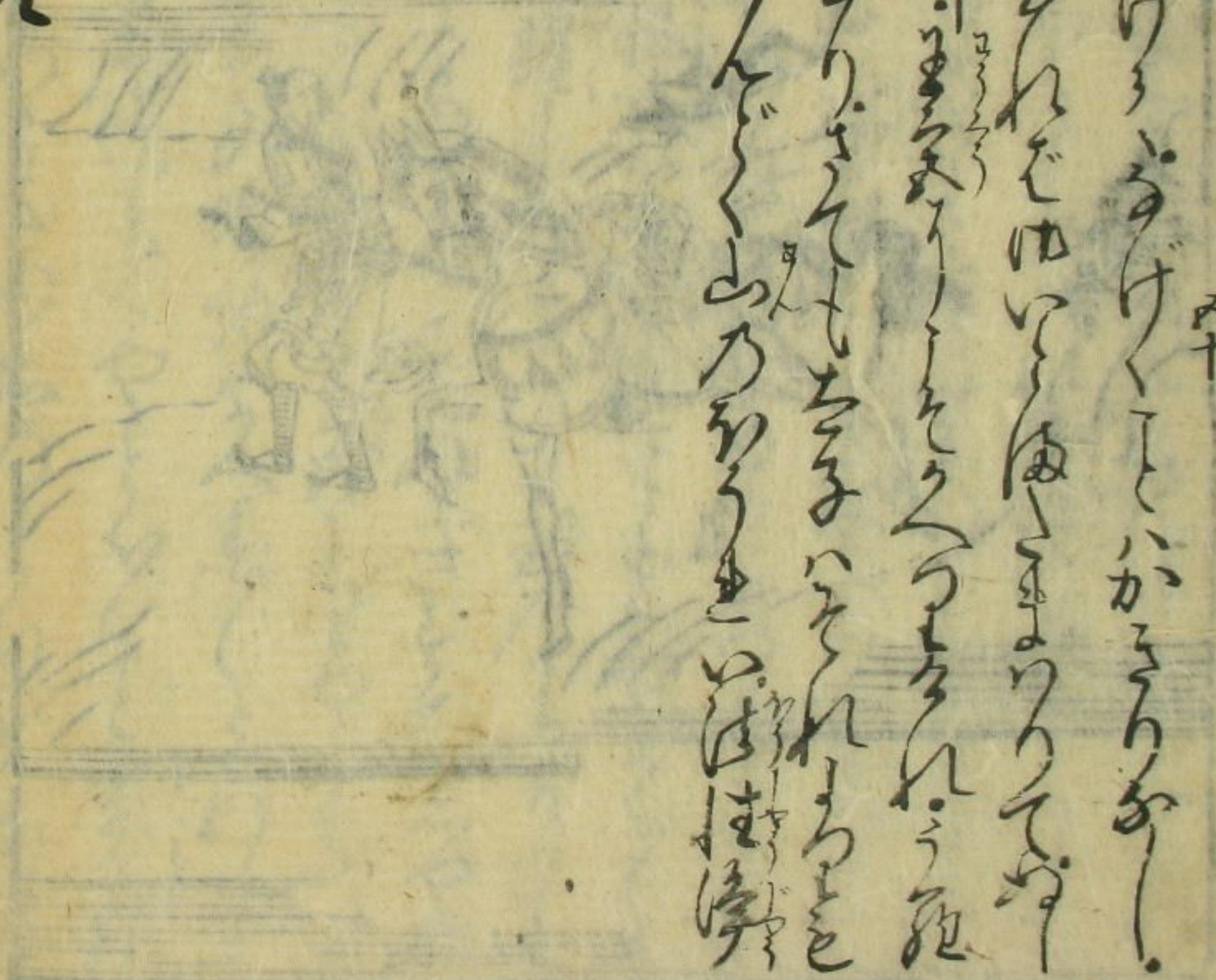
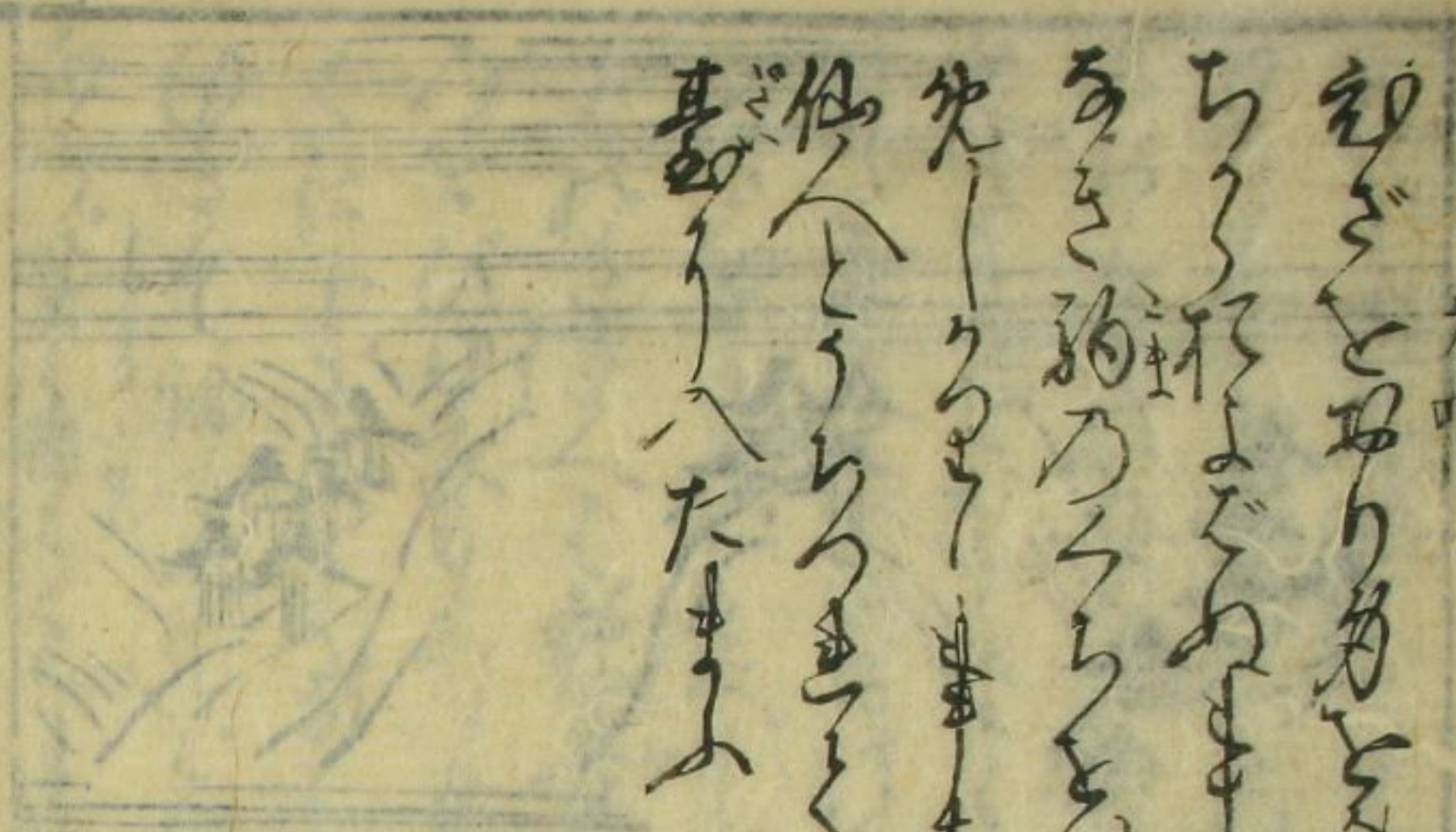


此のあたりに仙人といふところへ先々往くべしとて  
 有りてしるめくあるをぞうしそれ仙はのみらとて  
 又らうくはらうのよゆらうりあるを望みたりとて  
 とていふをかくはしりし仙のちやなとらふものな  
 けいせきとてうきあはれありきしるるるるるるる  
 ありとてうきとていふ人抱人いりてきとてやとて  
 とていふまにむ執善踊躍一たまひておろりりり  
 乃とびいほきりりりりりりりりりりりりりりりり  
 くに下さねくおんざりれりりりりりりりりりりり  
 ひきそゆとていふねまどのちゆりりりりりりりり  
 あつしき無とていふはまやとていふとていふとて  
 ぶちやめくも物もいりりりりりりりりりりりりり



志やの子のりりりりりりりりりりりりりりりり

びびりおぼろげくさげくはかきりあし  
 ちろねよあまきちねをゆいへ海まよりてあ  
 るき物乃ららきりまきりしそくちまねう  
 先しうりまきりさるてもき子へそれあま  
 仙人とうらきくだんごく乃ちうきいしはは  
 甚だしく入たまよ



新八相物結分定終



早稲田大学図書館

011688991074